

学 校 名	山形市立蔵王第一中学校 山形市蔵王南成沢 3 4 番地 6 8 8 - 2 5 1 6 FAX 6 8 8 - 9 0 4 6	校 長	今 井 義 憲
		研究主任	吉 見 浩 二
研 究 主 題	自己の再発見，そして創造 ～「こまくさタイム」を中心とした教育課程の編成(5年次)～ - 子どもの自己評価能力の育成 -		
主 題 設 定 の 理 由	本校では，子どもたちが，次代を生き抜く上で欠くことができない資質を，「生命を尊び，創造的な人生を歩むことの大切さを知り，行動できること」と捉えている。平成 11 年度から平成 14 年度までの研究においては，総合的な学習の時間（「こまくさタイム」）を中心として教育課程を編成することにより，上記のような資質を身につけた（または，身につけようとする）生徒を育成しようと実践を積み重ねてきた。その取り組みの中で，重要性を再認識させられたのが「自分自身を自分でふりかえる活動」の大切さ，すなわち，自己評価能力育成の重要性である。「こまくさタイム」において，「自分の今行っている活動やそれに向かっている自分自身の姿をもう 1 人の自分が冷静に見つめ，考える」といった過程は，子どもの内面にものすごいエネルギーを沸きおこすのである。このエネルギーを教科の学習においても生かせないだろうか。「授業がわからない」「授業が楽しくない」と答える生徒の多くは，自分自身が学習内容のどこまで理解できていてどこからわからないかがわからない。または，どこがわからないのかなんとなくわかっているが，はっきりと言葉に表すことができない。学習していることがらの本質や構造がつかめておらず，断片的な知識の理解や技能の習得にとどまっている。 そこで，今年度は「こまくさタイム」を中心とした教育課程をさらに充実・発展させるとともに，その支えとなる教科の学習において自分自身をふりかえる自己評価能力を育て，さらに確かな学力を身につけることができる子どもを育成したいと考え本主題を設定した。		
研 究 の 目 標	(1) 「こまくさタイム」の創造 <u>3年間を見通したカリキュラムの整備</u> <u>自己の生き方を見つめ，生活化・行動化できる子どもの育成</u> 指導・支援のあり方の工夫 (2) 教科学習（必修，選択）の指導 <u>「蔵王一中がつけたい力」の明確化と有効な活用方法の開発</u> <u>次の2つの視点からの授業づくり</u> ア <u>自己評価能力が育つ授業</u> イ <u>数量的に評価しにくい観点に焦点を当てた授業</u> C 評価への後指導の工夫 個に応じた指導（習熟度別指導，少人数指導） 太字アンダーライン：本年度		

研究仮説	「こまくさタイム」と「教科学習」について，以下の5点を仕組めば，一人一人の生徒が，自分自身をふり返りながら主体的に学習し，生命を尊び，創造的な人生を歩むことの大切さを知り，行動しようとするであろう。 <こまくさタイム> 1 学び方を学ぶ「基礎学習」と「生命の学習」から仕組む。 2 学習課題を設定するための構成要素を明確にして個々の生徒に応じた指導・支援を行い，多様な表現活動の技能を習得して発表し，交流する場を設定する。 3 生命に関わるテーマを発展的に設定し，「自己」「他者」「自己と他者のつながり」の観点から，生命の大切さに気づき行動化・生活化できるように指導・支援する。 <教科学習> 1 「蔵王一中がつけたい力」を通して，子ども・教師・保護者が評価規準を共有化できるように工夫する。 2 教科ごとに，その重要単位において，「自己評価能力が育つ授業」や「数量的に評価しにくい観点到焦点を当てた授業」についての実践を積み重ねる。																																																																							
研究の内容と年度計画	<table><tr><th colspan="2">内 容</th><th colspan="3">実 施 年 度</th></tr><tr><td rowspan="6">「こまくさタイム」の創造</td><td></td><td>～平成14年度</td><td>平成15年度</td><td>平成16年度</td></tr><tr><td>3年間を見通したカリキュラムの作成（整備）</td><td></td><td></td><td>→</td></tr><tr><td>課題設定における指導・支援のあり方の工夫</td><td></td><td></td><td>→</td></tr><tr><td>課題追究における指導・支援のあり方の工夫</td><td></td><td></td><td>→</td></tr><tr><td>豊かな表現力を育てる指導・支援体制の充実</td><td></td><td></td><td>→</td></tr><tr><td>自己の生き方を見つめ，生活化・行動化できる子どもの育成（自己評価能力に焦点）</td><td>○</td><td>→</td><td>→</td></tr><tr><td rowspan="10">教科学習（必修・選択）の指導</td><td>「蔵王一中がつけたい力」の作成，明確化</td><td>○</td><td></td><td>→</td></tr><tr><td>「蔵王一中がつけたい力」の冊子作成</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>「蔵王一中がつけたい力」の有効な活用方法の開発</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>自己評価能力に関する理論研究</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>自己評価能力が育つ授業実践（各教科で）</td><td></td><td></td><td>→</td></tr><tr><td>自己評価能力が育つ授業実践（全体での検討→まとめ）</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>数量的に評価しにくい観点到焦点を当てた授業実践（各教科で）</td><td></td><td></td><td>→</td></tr><tr><td>数量的に評価しにくい観点到焦点を当てた授業実践（全体での検討→まとめ）</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>C評価への後指導の工夫</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>個に応じた指導（習熟度別指導，少人数指導）</td><td></td><td>○</td><td>→</td></tr></table>	内 容		実 施 年 度			「こまくさタイム」の創造		～平成14年度	平成15年度	平成16年度	3年間を見通したカリキュラムの作成（整備）			→	課題設定における指導・支援のあり方の工夫			→	課題追究における指導・支援のあり方の工夫			→	豊かな表現力を育てる指導・支援体制の充実			→	自己の生き方を見つめ，生活化・行動化できる子どもの育成（自己評価能力に焦点）	○	→	→	教科学習（必修・選択）の指導	「蔵王一中がつけたい力」の作成，明確化	○		→	「蔵王一中がつけたい力」の冊子作成		○		「蔵王一中がつけたい力」の有効な活用方法の開発		○		自己評価能力に関する理論研究	○			自己評価能力が育つ授業実践（各教科で）			→	自己評価能力が育つ授業実践（全体での検討→まとめ）				数量的に評価しにくい観点到焦点を当てた授業実践（各教科で）			→	数量的に評価しにくい観点到焦点を当てた授業実践（全体での検討→まとめ）				C評価への後指導の工夫				個に応じた指導（習熟度別指導，少人数指導）		○	→
内 容		実 施 年 度																																																																						
「こまくさタイム」の創造		～平成14年度	平成15年度	平成16年度																																																																				
	3年間を見通したカリキュラムの作成（整備）			→																																																																				
	課題設定における指導・支援のあり方の工夫			→																																																																				
	課題追究における指導・支援のあり方の工夫			→																																																																				
	豊かな表現力を育てる指導・支援体制の充実			→																																																																				
	自己の生き方を見つめ，生活化・行動化できる子どもの育成（自己評価能力に焦点）	○	→	→																																																																				
教科学習（必修・選択）の指導	「蔵王一中がつけたい力」の作成，明確化	○		→																																																																				
	「蔵王一中がつけたい力」の冊子作成		○																																																																					
	「蔵王一中がつけたい力」の有効な活用方法の開発		○																																																																					
	自己評価能力に関する理論研究	○																																																																						
	自己評価能力が育つ授業実践（各教科で）			→																																																																				
	自己評価能力が育つ授業実践（全体での検討→まとめ）																																																																							
	数量的に評価しにくい観点到焦点を当てた授業実践（各教科で）			→																																																																				
	数量的に評価しにくい観点到焦点を当てた授業実践（全体での検討→まとめ）																																																																							
	C評価への後指導の工夫																																																																							
	個に応じた指導（習熟度別指導，少人数指導）		○	→																																																																				
今年度研究計画	<table><tr><td>4月：研究主題，研究仮説・構想の検討</td><td>11月：授業研究会</td></tr><tr><td>5月：研究全体計画の検討，標準学力検査の分析</td><td>12月：校内研究会（成果と課題）</td></tr><tr><td>6月：各教科のテーマ・仮説の検討</td><td>1月：「こまくさタイム」プレゼンテーション交流学習会・2年生ー</td></tr><tr><td>7・8月：教科群の決定，授業構想検討</td><td>2月：研究紀要作成</td></tr><tr><td>9月：授業研究会</td><td>3月：研究のまとめ（来年度研究について）</td></tr><tr><td>10月：校内研究会（自己評価に関する理論研究）</td><td></td></tr></table> 「こまくさタイム」プレゼンテーション交流学習会・3年生ー 毎週金曜日に研究推進委員会を行う。	4月：研究主題，研究仮説・構想の検討	11月：授業研究会	5月：研究全体計画の検討，標準学力検査の分析	12月：校内研究会（成果と課題）	6月：各教科のテーマ・仮説の検討	1月：「こまくさタイム」プレゼンテーション交流学習会・2年生ー	7・8月：教科群の決定，授業構想検討	2月：研究紀要作成	9月：授業研究会	3月：研究のまとめ（来年度研究について）	10月：校内研究会（自己評価に関する理論研究）																																																												
4月：研究主題，研究仮説・構想の検討	11月：授業研究会																																																																							
5月：研究全体計画の検討，標準学力検査の分析	12月：校内研究会（成果と課題）																																																																							
6月：各教科のテーマ・仮説の検討	1月：「こまくさタイム」プレゼンテーション交流学習会・2年生ー																																																																							
7・8月：教科群の決定，授業構想検討	2月：研究紀要作成																																																																							
9月：授業研究会	3月：研究のまとめ（来年度研究について）																																																																							
10月：校内研究会（自己評価に関する理論研究）																																																																								